

AALA ニュース 97号の内容紹介

編集部

97号の内容を紹介します。今号は5本の記事が掲載されます。

1. 鈴木勝比古「ASEANの平和路線－その経験と知恵から学ぶこと」

表題は「平和・協力・繁栄の東アジアへの地平を開く ASEAN の歩み－その経験と知恵から学ぶこと」となっています。

鈴木さんはしんぶん「赤旗」の元ハノイ特派員で、多くの著作があります。

2. 後藤政子「チリ 若い新大統領へ」

中南米研究家で神奈川大学名誉教授の後藤政子さんの論考です。ボリッチ大統領を生み出したチリの青年運動の背景を探っています。そして、これからさらに保守派とのせめぎあいが続くこと、それはラテンアメリカ全体の変革の流れの中で捉えられなければならないことを示唆しています。

3. K.J.ノー「国際法をあざけるアメリカ」

アメリカが他国に人権や国際法遵守を迫りながら、いかに自分たちは国際法を無視しているかを告発しています。

この評論が掲載された「グローブ・トロッター」はジャーナリストが自主的に運営する独立メディアで、アジア・アフリカ・ラテンアメリカを中心にカバーしています。 <https://globetrotter.media/>

4. 英ウィキより 「ラテンアメリカにおけるピンクの潮流」

ラテンアメリカ諸国で左翼が一時の退潮を経て、ふたたび上り坂に達しています。英語版ウィキペディアはその経過と背景を要領よくまとめています。ピンクというのは「アカ（共産党）ではないぞ」というくらいの、いかにもメディアっぽい命名ですが、それだけではもはや説明しきれなくなっているようです。

5. ブラジル世論調査でルーラが圧倒的優勢

今年行われるブラジル大統領選挙はボルソナロ現大統領と、ルーラ元大統領の争いとなる状況ですが、世論調査ではルーラが圧倒的優勢となっています。ベネズエラに本拠を置く国際衛星テレビ局「テレスール」の報道です。